

令和4年度

教育行政方針

釧路市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
---	------	-------	---

II	令和4年度の施策の概要	3
----	-------------	-------	---

「生きる力を育む学校教育の推進」

- (1) 確かな学力の確立
- (2) 豊かな心の育成
- (3) 健やかな体の育成

「育ちと学びを支える教育環境の充実」

- (1) 充実した学びを支える教育環境の整備
- (2) 信頼に応える学校づくりの推進
- (3) 健全な育ちを支える連携・協働の強化

「新たな学びを創る生涯学習の推進」

- (1) 主体的な学びの推進
- (2) 自然との共生と文化芸術の振興
- (3) 健全な心と身体を育む活動の推進と強化

III	おわりに	14
-----	------	-------	----

I はじめに

釧路市議会2月定例会の開会にあたり、令和4年度の教育行政方針と主要な施策を申し上げ、議員各位、市民並びに教育関係者の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

今なお世界に未曾有の脅威をもたらす新型コロナウイルス感染症は、同時に、私たちの生活様式をも一変させるパラダイムシフトを生じさせました。地域間の往来はその都度制限を受け、人同士の接触も大幅な低減を余儀なくされる一方、オンライン会議やテレワークに代表されるデジタルツールの活用が、社会の隅々に急速に浸透するなど、こうしたデジタル化促進の流れは、今後なお一層テンポを速めていくものと想定されます。

私たちが携わる教育現場においても、GIGAスクール構想による一人一台端末の導入が劇的に進展し、最たる課題として位置付けてきた授業改善に向け、このツールが持つメリットを最大限に取り入れるべく、日々懸命な努力が続けられるとともに、市民の生涯学習を支える各施設でもまた、整備された通信環境を活かした、様々な取組が進められているところです。「新たな日常」ともいうべき、現下の状況を十分に踏まえつつ、さらには、ポストコロナ期をも視野に入れた、次の時代にも的確に対応し得る教育の必要性を、強く認識せざるを得ません。

教育委員会では、平成30年度を初年度とする5か年計画、「釧路市教育推進基本計画」と「釧路市社会教育推進計画」とを、それぞれに多角的な指標を掲げ具体の施策を展開する中で、山

積する課題の解決に積極果敢に取り組んでまいりました。

いよいよこの一年が最終年度ということになります。

現計画の期間内に生じた、正に激震とも称すべき社会状況の変化も含め、施策ごとに検証を行いつつ、次期計画への反映も念頭に入れながら、残された一年も引き続き全力で課題解決を図るべく、次の3つの基本姿勢に基づき、教育行政を推進してまいります。

基本姿勢の一つ目は、「生きる力を育む学校教育の推進」であります。予測困難な将来社会を生き抜くうえでは、確かな学力をはじめとする、子供たちへの「生きる力」の醸成が不可欠であり、授業改善や小中連携をさらに加速するなど、個々の教育的ニーズに即した指導の充実を図ってまいります。

二つ目は、「育ちと学びを支える教育環境の充実」であります。子供たちにとって、学校はどうあるべきかという視点で市民レベルでの議論を深め、今後の方向性を取りまとめるとともに、学校施設の計画的な整備や教員の資質向上等、子供たちの豊かな学びにつながる教育環境の充実に努めてまいります。

三つ目は、「新たな学びを創る生涯学習の推進」であります。急激に変化する社会の動向も見据え、自ら学ぶ人々を支える環境を整備するとともに、学んだ成果と意欲が地域課題の解決に活かされる生涯学習社会の構築に努めてまいります。

以下、本年度の施策の概要について述べてまいります。

「生きる力を育む
学校教育の推進」

確かな学力の確立

基本姿勢「生きる力を育む学校教育の推進」の1点目は、「確かな学力の確立」であります。学校の主役は子供たち一人一人であり、そして、その主役たちを誰一人置き去りにしない教育を実現するためには、個々の状況を的確に把握したうえで、対面形式の利点とICTが持つ優位性とを効果的に融合させ、新たな時代に求められる授業像を確立することが必要であります。

小学校における学力が、この数年間にわたって比較的安定した水準で推移する一方、中学校においては数学をはじめとして引き続き課題が残る状況を脱せず、何としても早急に実現しなければならないのは教員の授業力向上であります。

このため、令和3年度に認定制度を創設した授業マイスターを中心に、学力向上に特化した組織である学力向上推進委員会とを連動させる中で、全市的な規模で課題を把握・分析し、学校個々における特性も踏まえながら、授業マイスターによる授業公開や動画配信等を通して、目指すべき授業のあり方を具体的に示し、釧路市全体へと波及させてまいります。

また、授業とは、教員と子供たちが共同して作りあげるものとの認識に立ち、教員が自らを自己評価することに加え、児童生徒によるアンケート方式の授業評価を取り入れるなど、新たな視点を加味した授業評価と改善を進めてまいります。

さらに、オンラインによる授業参観等を通して交流を続けてきた秋田県大館市に学力向上推進委員会委員を派遣し、体感し

た高いレベルの授業や教員の姿勢を全市に広げる取組を進め、教員全体のさらなるレベルアップにつなげてまいります。

また、英語科教員の授業力向上に向けては、全校に配備される英語科のデジタル教科書の活用も含め、外国語教育アドバイザーによる巡回指導を、より効果的に行ってまいります。

加えて、学力向上に取り組むうえでの課題を把握し、施策に反映すべく、釧路市標準学力検査と連動した生活・学習意識調査を7年ぶりに実施するほか、小・中学校を通して、統一した様式による家庭学習計画表の導入を進めることで、切れ目のない学習習慣の定着を促すとともに、北海道教育大学釧路校の協力による中学校における放課後学習サポート事業等を継続し、基礎的な学力の定着と、個々の到達度に応じた学びの実現に努めてまいります。

公立夜間中学については、4月に開校する札幌市の動向を把握するとともに、令和3年度に北海道教育委員会が新たに設置したワーキンググループへの参加等を通して、学び直しを望む方々にとっての最適な場の実現を念頭に、引き続き検討を深めてまいります。

また、キャリア教育については、釧路青年会議所との連携協定に基づき、令和3年度から実施したキャリアシンポジウムやジョブカフェを全中学校において教育課程に位置付けるとともに、オンラインも活用し、なお一層の充実を図ってまいります。

特別支援教育では、子供たち個々の実態に即した適切な指導に向け、特別支援教育指導員を増員するなど、支援体制の充実を図るとともに、医療的ケア児に対しては、訪問看護ステーションへの事業委託を通して体制を拡充し、心身の状況等に応じた、きめ細やかな支援を進めてまいります。

豊かな心の育成

2点目は、「豊かな心の育成」であります。先行き不透明な時代に歩みを進める子供たちには、情報の正確性や必要度を自ら判断する能力が不可欠であります。そうした能力を育むために有効な手法の一つとして読書があり、令和3年度には教育懇談会や子どもミーティング、さらには総合教育会議においても、様々な効果を有する読書の必要性を一貫したテーマとして取り上げてまいりました。

本年度はこれら議論の経過も踏まえ、「朝読書」の徹底や、学校支援ボランティア等との連携による魅力ある学校図書館づくりなど、小・中学校を通じた具体の施策に結び付けるとともに、PTA連合会や連合町内会、中央図書館等とも連携し、家庭も含めた、全市的な読書活動の推進を目指してまいります。

いじめの未然防止と迅速な対応に向けては、各学校において、いじめやその兆候を積極的に認知する体制を強化すべく、研修講座を開設するとともに、教育相談の充実を通して早期の解決に努めてまいります。また、子供たちが一人一台端末を適切に

活用できるよう、家庭と連携した情報モラルに関する指導の徹底を図ってまいります。

不登校への対応については、令和3年度に新たに作成した長期欠席・不登校支援リーフレットの活用により、初期対応をはじめ「チーム学校」としての取組を強化するとともに、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを中心とした家庭教育支援チームにより、悩みを抱える子供たちとその家庭への支援を包括的に進めてまいります。

さらには、オンライン授業の活用とともに、学校適応指導教室や青空学級における支援の継続も含め、子供たちが自らの居場所を見つけ、将来への選択肢を広げるための学習機会を確保できるよう、個に寄り添った支援を進めてまいります。

健やかな体の育成

3点目は、「健やかな体の育成」であります。子供たちが生涯にわたって運動に親しむ環境を確保するとともに、望ましい食習慣を確立することは、心身の健康を保持するうえで重要であります。

このため、各学校における、体力向上計画に基づく発達段階に応じた運動習慣の確保とともに、子供たちが運動の楽しさや喜びを実感できる授業や体育行事の充実に努めてまいります。

また、新給食センターについては、令和7年4月の供用開始を目指し、建設用地の地質調査を実施するとともに、令和5年

度の着工に向け基本・実施設計を完了いたします。

地震や津波等の自然災害に対しては、子供たちが局面ごとに状況を的確に判断し迅速に行動することで、自らの命を守ることができるよう、令和3年度に開始した防災士等の外部講師を招へいたした学習を継続するとともに、地域や関係機関等とも連携し、発達段階に応じた防災教育を引き続き行ってまいります。

「育ちと学びを支える教育環境の充実」

充実した学びを支える教育環境の整備

二つ目の基本姿勢「育ちと学びを支える教育環境の充実」の1点目は、「充実した学びを支える教育環境の整備」であります。いつの時代においても学校には、子供たちを未来へと育む、学びの場としての最適な環境が求められるとの意義・役割を踏まえ、社会の状況変化にもしっかりと対応し得る整備を計画的に行うことが重要であります。

このため、令和3年度に設置した「釧路市立小中学校のあり方検討委員会」からの中間報告をもとに、地区ごとに市民レベルでの意見交換の場を設け、それらの議論も踏まえ、本年度内には、今後の基本方針となる「(仮称) 釧路市がめざす学校のすがた基本計画」を策定してまいります。

また、学校施設長寿命化計画に基づき、幣舞中学校において体育館の屋上防水改修工事を実施するなど、施設の効率的な維持管理に努めてまいります。

2点目は、「信頼に応える学校づくりの推進」であります。地域に開かれ信頼される学校を実現するためには、教員の資質・能力の向上とともに、保護者や地域住民の声が的確に反映される、家庭や地域社会との連携協力が重要であります。

このため、新たに小学校6校、中学校2校でコミュニティ・スクールを導入するとともに、地域学校協働活動推進員を中心とした地域学校協働本部事業とを両輪として機能させる中で、地域とともにある学校づくりをより一層進めてまいります。

また、指導主事による全学校の学校教育指導を充実し、すべての教員の授業を参観するとともに、各校のデータを分析し、教育課程や学習指導、生徒指導等の分野ごとの課題を可視化しながら、解決に向けた方策を示してまいります。

さらには、「学び続ける教員」を育成すべく、研修講座の充実を図るとともに、学力向上推進委員会により令和3年度に開設された「授業交流サイト」に、授業マイスターによる動画を公開するなど、初任段階教員のみならず、すべての教員がいかなる時にも自己研鑽が可能な仕組みづくりを進めてまいります。

北陽高等学校では、本年度からの普通科単位制への移行にあわせ、英語教育の充実に向けて、専属のALTの配置や英語資格試験に係る受験料の助成を行ってまいります。

学校における働き方改革では、令和3年度に作成したアクション・プランに基づき校務の見直しを行うとともに、中学校にお

ける部活動指導員の導入に向けた検討を進め、また、国が本年度からの本格導入を掲げた、小学校での教科担任制の効果的な活用等を通して、さらなる負担軽減に取り組んでまいります。

3点目は、「健全な育ちを支える連携・協働の強化」であります。とりわけ中学校では、学習内容の高度化による授業の理解力低下とあわせ、いじめ等の問題行動の増加といった教育課題が生じやすく、この解消に向けては、学習と生活の両面において、小・中学校を通した効果的な指導が必要であります。

このため、新たに「小・中ジョイントプロジェクト」を立ち上げ、中学校区における9年間の連続した学びをより重視すべく、小中連携協議会を再編し、学力向上や生徒指導上の課題解決に向け協議を深めるとともに、家庭学習計画表の活用や、小・中学校の教員が相互に授業に出向く「ジョイント授業」の計画的な実施等、小中連携の強化を推進してまいります。

また、通学路の安全確保に向けては、釧路市通学路安全プログラムによる合同点検を継続するとともに、交通安全教育の充実をさらに進めてまいります。

子供たちが主体となって、身近なテーマを掲げ意見を交わし合う「釧路市子どもミーティング」や、保護者や地域の方々、関係機関等との意見交換の場である「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」は、今日的な教育課題の解決に向けた、現

「新たな学びを創る
生涯学習の推進」

主体的な学びの推進

場に横たわる「生の声」を施策に反映させるうえで有意義であり、本年度も継続して行ってまいります。

最後の基本姿勢「新たな学びを創る生涯学習の推進」の1点目は、「主体的な学びの推進」であります。市民一人一人が社会の変化に柔軟に対応し得る、高い「市民力」を有するまちづくりを進めるためには、地域の学習活動の充実による、知る喜び、伝える喜びを誰もが実感できる生涯学習社会の構築が必要であります。

このため、生涯にわたっての学びの基盤となる読書習慣の定着を促すため、中央図書館では、ブックフェスティバル等学校における取組への支援を強化するとともに、学校・家庭・地域との連携による、読書週間にあわせた啓発イベントの実施や、新たな施策である図書の郵送貸出サービス等を通して、全市に広がる読書活動の推進に努めてまいります。

また、快適で安全・安心な生涯学習活動を支える施設の機能維持・向上に向け、改修等を計画的に進めるとともに、蔵書や貸出等を管理する図書館システムの最適化、こども遊学館の展示機器の更新等により、魅力ある施設環境づくりを進めてまいります。

博物館では、学芸員の研究成果を伝える企画展を随時開催するほか、日本製紙釧路工場の歩みを伝える講演会や記録集の発

行等、地域産業の足跡をたどる取組を行ってまいります。

また、くしろ 100 年事業にあわせ、平成以降の市勢を取りまとめ、釧路市年表として発行するとともに、釧路叢書や釧路新書等を活用した、地域の歴史や文化、産業に係る講座を開催するなど、身近な話題を通じた、学ぶことへの動機づけにも努めてまいります。

2 点目は、「自然との共生と文化芸術の振興」であります。多様な生態系を育む本市の壮大で豊かな自然と、郷土の歴史や伝統に培われた文化芸術は、潤いある暮らしと活力ある社会の実現に不可欠な地域の宝として、後世へつないでいくことが重要であります。

このため、国の特別天然記念物の指定から 70 周年を迎える「タンチョウ」と「阿寒湖のマリモ」については、保全への理解を深める巡回パネル展等を通して、普及啓発に努めてまいります。

アイヌ文化については、アイヌ施策推進法に基づく交付金を活用し、釧路・阿寒両アイヌ協会の協力をいただき、伝統的な料理や刺繍、伝承遊び等の体験講座を実施するほか、小学校での出前授業や、動物園においては、アイヌ文化をより身近に感じられるよう、ヒグマ舎等の整備に向けた実施設計に着手するなど、さらなる保存継承に取り組んでまいります。

市立美術館では、国内外の優れた文化芸術に触れる機会として、「ルーヴル美術館の銅版画展」をはじめ、3つの企画展を開催いたします。

また、文化団体連絡協議会をはじめ地元の文化関係団体との連携により、小・中学校における、郷土の文化芸術を伝承する取組を継続するほか、市民が身近に文化芸術に触れる場として長い歴史を誇る釧路市芸術祭を引き続き支援してまいります。

「あたらしくしろ」のテーマのもと、道内では初の開催として、3日間の会期中に内外から14,000人の参加を得た「エンジン01 in 釧路」から4年が経過し、これを一過性のものとせず、改めて、地域の文化芸術の振興とまちの活性化を目指す後継事業「エンジン02 in 釧路」の開催を支援してまいります。

3点目は、「健全な心と身体を育む活動の推進と強化」であります。「人生100年時代」が叫ばれる中、市民の健康維持・増進、さらには、活力に満ちた地域社会の構築に向け、今やスポーツは欠くことのできないものであります。

このため、幅広い年齢層に対応した講座や、障がいのある方も安心して参加できる講座等、感染症対策には万全を期しつつ、多様な機会の提供に努めるとともに、指導者の育成にもつながる総合型地域スポーツクラブの支援に引き続き取り組んでまいります。

健全な心と身体を
育む活動の推進と強
化

本年度に本市で開催される全国及び全道規模の大会は、8月の第52回全国中学校剣道大会や、令和5年1月の第72回全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会等、全国4大会、全道19大会が予定されております。いずれも、円滑な大会運営を支援しつつ、市民への優れたスポーツに触れる機会の提供に努めるとともに、令和5年8月の全国高等学校総合体育大会、いわゆるインターハイ女子バレーボール大会の開催に向け地元実行委員会を設立し、しっかりとした受入体制の構築を進めてまいります。

また、釧路湿原マラソンは、雄大な自然と夏期の冷涼な気候、さらには多くのボランティアのホスピタリティ等、全国各地からの参加者から好評を博しており、半世紀の節目、50回を記念する本年度の大会は、7月31日に予定しております。

スポーツ合宿では、合宿誘致スーパーバイザー協議会を再編し、新たな協議会委員の人脈や経験を活かした、さらなる合宿の誘致を進めてまいります。

また、東京オリンピック・パラリンピックにおいてホストタウンの登録を受けた精神を受け継ぎ、パラ・パワーリフティング日本代表等の合宿誘致に取り組むほか、引き続きトップアスリートによるスポーツ教室等を通じた、地域の競技力向上にも努めてまいります。

Ⅲ おわりに

結びに、改めて、教育行政推進にあたっての思いと決意を述べさせていただきます。

「社会の変化に対応する力を身に付けたい。」「次の世代に何を伝え、何を残すべきかを考えたい。」。オンラインという手法を用いた新たな取組「キャリアシンポジウム」に寄せられた質問や意見は約 1,000 件。参加いただいた中学 1 年生の数とほぼ同数です。いま再びそれらすべてに目を通すとき、青年会議所理事長と教育長、さらには 1,000 人の中学生をリアルタイムで結んだこの初の試みが、生徒一人一人の心を揺さぶる、確かなきっかけになってくれたらと願わずにはられません。そしてこの取組は同時に、ICT が有する大いなる可能性と、子供たちの幸せを心から思う、このまちに根差した人々の存在を、私に強く感じさせるものでもありました。

つい先ほどまで、タブレット画面に頭をひねっていた児童が、チャイムが鳴るや、足取り軽く体育館に向かっていきます。この小学校では初めてのブックフェスティバルの日です。「スマートフォンネイティブ」とも称されるデジタル時代の申し子たちにとっても、「紙」の本に込められた多くの情報は、なお魅力的に映るようです。大きさや装丁、挿し絵の色合いやレイアウト、手に取った質感等、それら一つ一つが本に個性を与え、その個性を直に受け取ることで、子供たちは作者のメッセージを

感じ、感動を得ることができるのでしょうか。さらには、この日もまた、子供たちに読書の楽しさを伝えたいとの真摯な思いから、数名のボランティアの方々が、二千冊余が並ぶ会場狭しと動き回り、選書のサポートに懸命に取り組まれておりました。

ポストコロナ、あるいはその先の未来社会にあっても、デジタル化の流れが日を追って加速することは、もはや論を待たないものと思います。そのうえで、デジタル化以前のものの価値をいわば二者択一的に排除するのではなく、ハイブリッド、すなわち、相互の持つ優位性をバランス良く補完し、活かし合う仕組みづくりの必要性とそれらはすべて、人々の幸せが前提でなければならないことを、いま改めて強く認識するところです。

このまちにはひとがいます。すべての子供たちに輝かしい未来が訪れることを一心に願い、また、学ぶ意欲を有する人々への支援を片時も惜しまない多くのひとがいます。

新たな年度もまた、こうした方々と思いを重ね合わせ、現場にこそ吹く風を明日への指針、道標としてしっかりと受け止めながら、釧路市の教育の基本理念「釧路の風土で育まれ 未来を拓く 心豊かな人づくり」の実践に向け、組織一丸となり全力で、各種の施策に誠心誠意取り組んでまいる所存であります。

議員各位、市民並びに教育関係者の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。